



一般国道103号  
**奥入瀬**  
あおふなやま  
**【青樺山】**  
**バイパス**



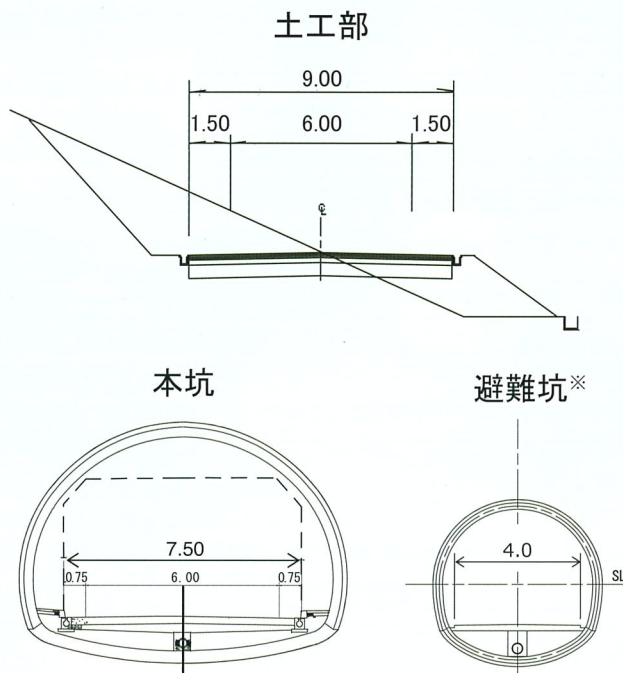
# 事業の概要

おいらせ あおがなやま 奥入瀬(青楓山)バイパスは、一般国道 103 号の青森県十和田市青楓山～十和田市子ノ口の幅員狭小、線形不良及び急勾配の隘路区間や通行規制区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とする道路です。

平成 25 年度より、直轄権限代行事業として青森河川国道事務所が整備することになりました。

奥入瀬(青楓山)バイパスは、災害時の被災箇所を迂回し、安全な通行が確保されるとともに、奥入瀬溪流沿いの自然環境が保全され、散策時の安全性や快適性の向上が期待されます。

## 標準横断図



### ※避難坑

本坑に先駆けて掘削し地質や土質、水脈の調査などを行うことと、本坑開通後に車両事故等があった場合の避難路となるという二つの役割があります。

## 計画の概要

- 路線名：一般国道103号
- 事業名：奥入瀬(青楓山)バイパス
- 区間：起点 青森県十和田市青楓山  
終点 青森県十和田市子ノ口
- 延長：L = 5.2km
- 計画幅員：9 m (2車線)

## 事業の経緯

- H12 事業化(青森県施工)
- H22.10 公園事業の変更  
(中央環境審議会)
- H25.3 十和田市長が権限代行を  
国土交通副大臣に要望
- H25.4 国土交通省で新規事業化
- H25.10 奥入瀬溪流利活用検討委員会  
発足
- H26 工事着手
- H28 青楓山トンネル(避難坑)  
工事着手

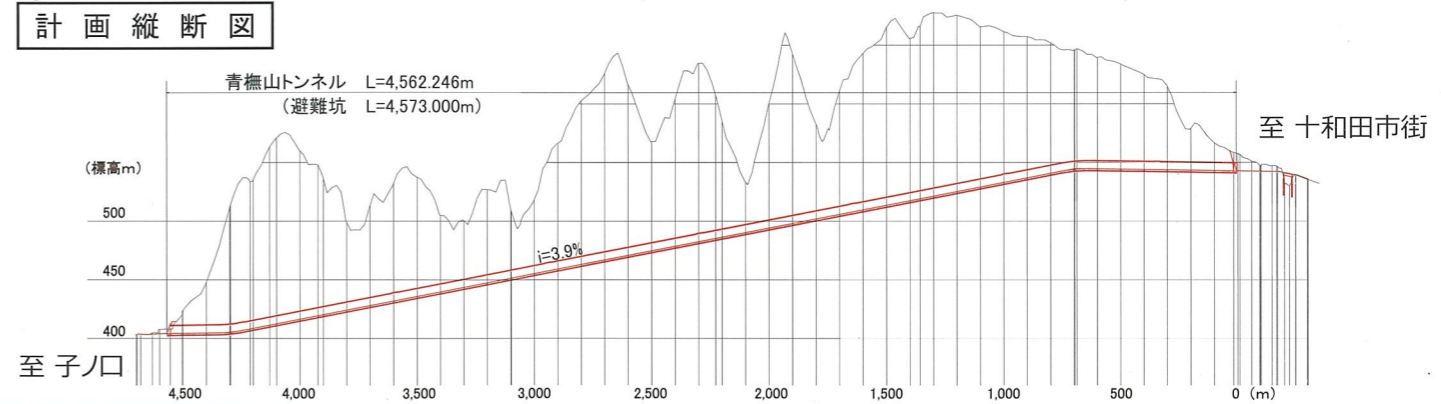
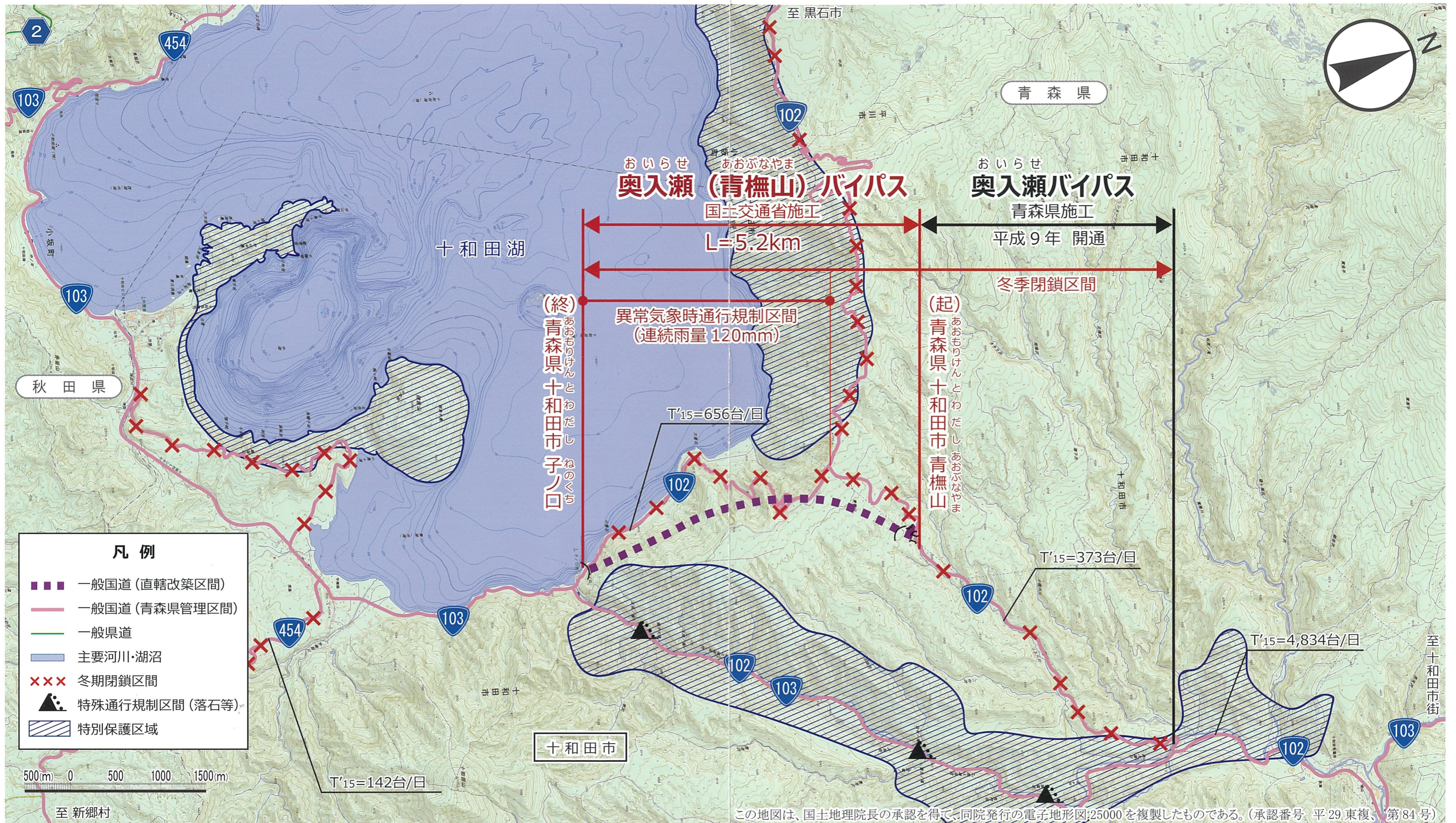
## 工事状況



トンネル起点側



トンネル終点側



# — 奥入瀬(青楓山)バイパス事業の効果 —

## 地域の現状 “観光に大きな支障”

### 観光期の渋滞や排気ガスによる、 奥入瀬溪流への影響

- 当該箇所は、すれ違い困難箇所 (W<5.5m) が多数存在するとともに、線形不良箇所 (R<100m) が66箇所存在します。



渋滞発生時(すれ違い困難状況)

- 国立公園の特別保護地区のため、現道改良等の抜本的な対策ができず、生活交通、観光交通に支障をきたしています。

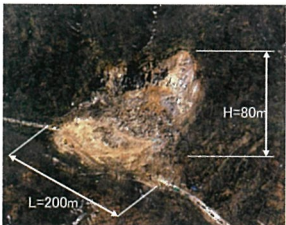
### 災害発生により大きな迂回が発生

- 過去10年間に、災害により奥入瀬溪流区間で27回、七曲区間で8回の全面通行止が発生しています。



H20.7.24発生 落石・崩落 (地震)

- 平成11年の法面崩壊発生時には、3ヶ月半の通行止めが発生しました。



H11.3.10発生 大規模地すべり

- 通行止め期間中は、迂回により所要時間が約35分増加し、観光客や地域住民の救助活動に支障が生じます。

環境

渋滞

災害

## 想定される事業の効果 “奥入瀬の観光を支援”

### 国立公園の特別保護区である 奥入瀬溪流の自然環境を保全します

- 道路が狭い箇所や急カーブ箇所を回避し、安全な生活交通、観光交通を確保するとともに、奥入瀬溪流の自然環境が保全され、散策時の安全性や快適性が飛躍的に向上します。

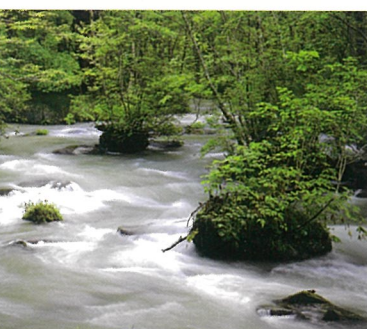


### 幹線道路の脆弱性を解消します

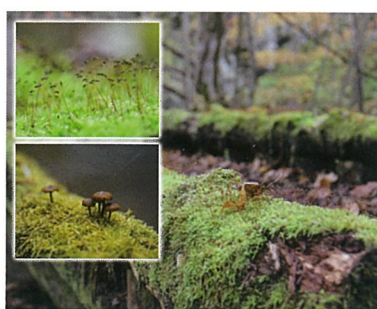
被災箇所を迂回し、災害に強い道路に改築することにより、安全な通行を確保します。



## 奥入瀬溪流のみどころ



- 九十九島(くじゅうくしま)  
奥入瀬溪流の代表的な流れの一つである「阿修羅の流れ」から少し上流部にある。



- 苔橋(こげばし)  
様々な種類の苔で覆われている苔橋。苔に覆われていることで周囲の景観と一体化している。苔は溪流の風景に欠かせない存在である。

## 奥入瀬溪流プロモーションビデオ 世界に奥入瀬溪流の魅力を発信



動画はこちらからご覧いただけます

YouTube

奥入瀬フィルハーモニー交響楽団

検索



# 奥入瀬溪流の“利活用”を 考える取り組み

「奥入瀬溪流」は、我が国が世界に誇る貴重な自然環境や美しい自然景観を有しており、後世に守り伝えていかなければならない国民共有の財産です。

青楓山バイパス開通後の奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿やこれを達成するための戦略を、環境保全、観光振興、交通システムの観点から「奥入瀬ビジョン」(平成30年6月 奥入瀬溪流利活用検討委員会)としてとりまとめられ、現在、具体的な交通システムを実現するための話し合いが進められています。



奥入瀬溪流利活用検討委員会(令和4年8月)

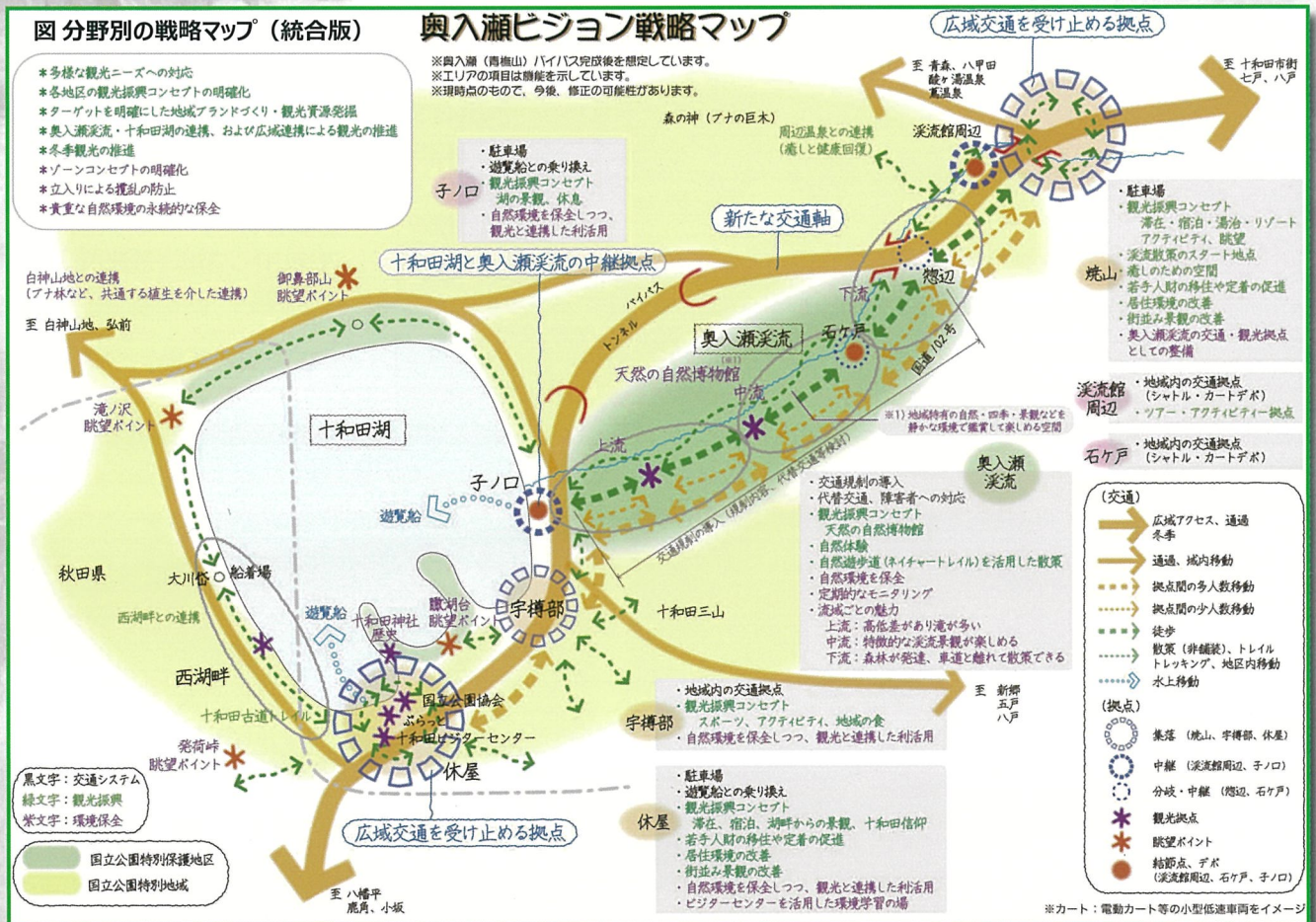


奥入瀬溪流交通システム検討ワークショップ(令和2年2月)

## 奥入瀬ビジョン 地域の目指す姿

すばらしい自然環境を有する奥入瀬・十和田湖地域を世界に誇れる地域として次世代に残していくためには、人と自然が共存・共生し、持続可能な地域であることが必要です。

そのために、自然環境や歴史文化の保全と、観光を中心とする生業が両立した地域を目指します。



# 奥入瀬溪流の魅力を向上させる取り組み

## 奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト



交通規制に頼らずに、来訪者に自発的に奥入瀬溪流区間の車両通行を控えていただく取り組みです。(MM※)

溪流区間の安全性向上を図り、観光で訪れる方に奥入瀬溪流ならではの自然景観やせせらぎ等の音環境を体感し、楽しんでもらうことを目的に、関係する企業や地域住民の皆様のご協力をいただきながら行っています。

※MM(モビリティ・マネジメント)

一人一人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通政策



ボランティアガイドと奥入瀬溪流を散策



ポスターやチラシによるPRを実施

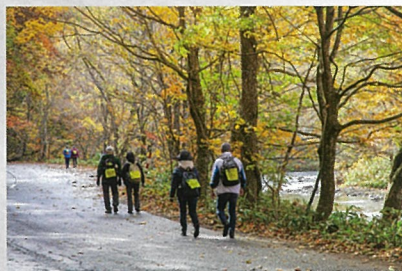
## 奥入瀬溪流エコロードフェスタ

青樺山バイパス開通後の奥入瀬溪流区間の本格的な交通規制を見据え、溪流観光のハイシーズンとなる10月最終週に平休4日連続で「奥入瀬溪流マイカー交通規制」を実施しています。

このうち土日の2日間は、奥入瀬溪流の自然環境の大切さや世界レベルの魅力を多くの方に知っていただくために、「奥入瀬溪流エコロードフェスタ」を併催し、車の少ない奥入瀬溪流をゆっくりと楽しんでもらうための各種イベントやマイカーに代わる新交通として、環境に配慮した良質なモビリティによる社会実験を行っています。



奥入瀬溪流区間のマイカー規制を実施



来訪者は道路も含めた溪流沿いをゆっくり散策



新交通システムとしてECOMOSの実証実験を実施

# 工事の取り組み

## トンネル工事の過程



## 工夫している点

- ① 奥入瀬渓流沿いには多くの滝が存在するため、滝の流量の調査や、先行ボーリングを実施し、状況を把握しながら施工しています。
- ② 観光シーズンには日中、工事車両が走らないように配慮しています。
- ③ 国立公園内での工事であるので、外来種の植物が育つことを防止する必要があることから、在来種のみが自然と生えるのを待つために種子無しの土のみを吹き付ける法面施工をしています。



国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所

〒030-0822 青森市中央三丁目20番38号 TEL: 017-734-4521

URL: <http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/>



令和5年3月作成